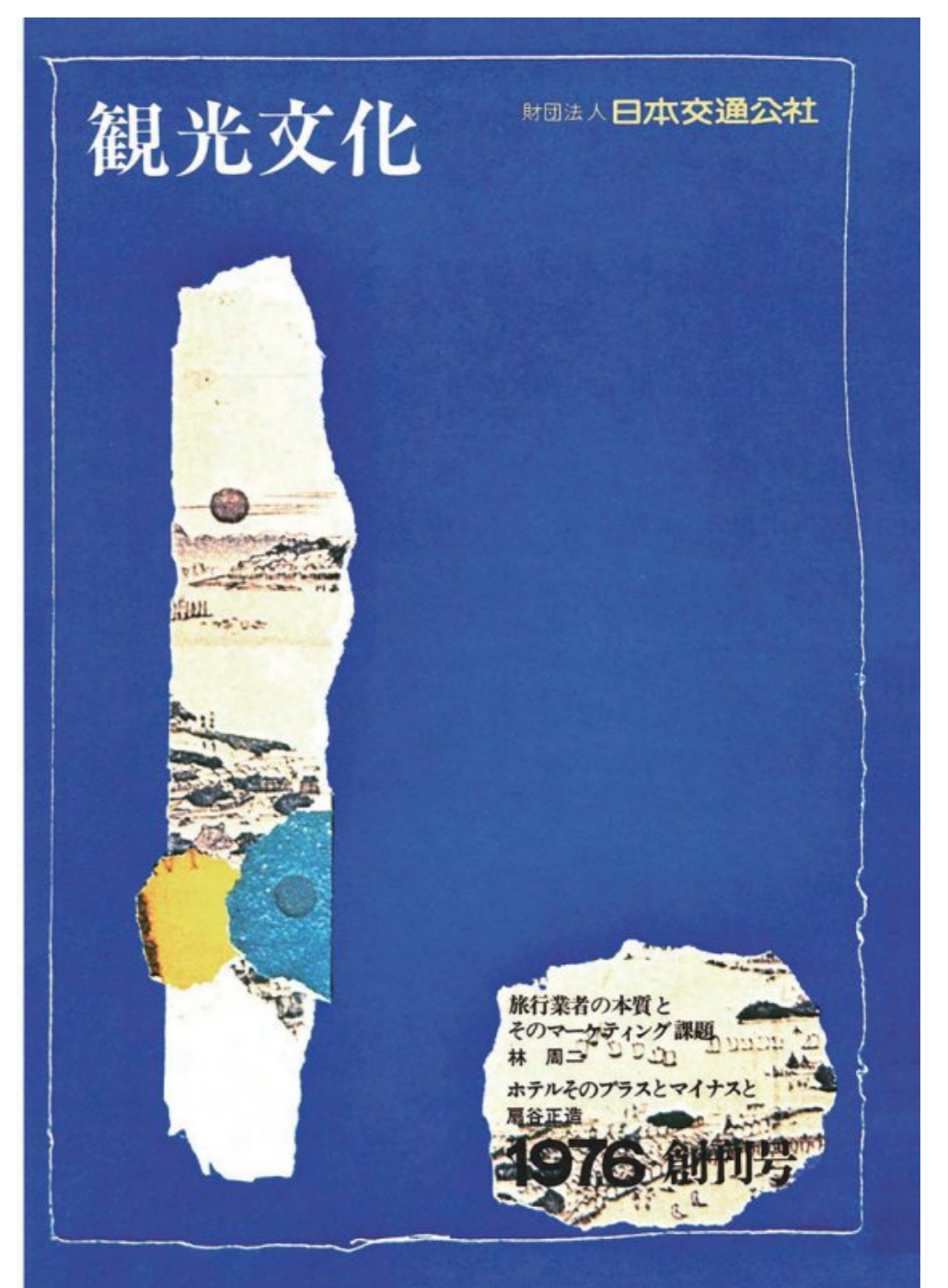


観光文化の創刊からこれまで

「特集」からみる日本の観光と社会の潮流

1976年12月、財団法人日本交通公社では、観光業におけるコミュニケーションの促進を図ることを目的に、各界の有識者、専門家が観光レクリエーションに対する意見を開陳し、また当財団の調査研究などの成果を発表する場として「観光文化」と題する機関誌を創刊しました。

B5判24ページの隔月刊でスタートした「観光文化」は、逐次ページ数を増やして、内容の充実にも努め、1980年からは26ページ構成となりました。創刊当初は、主要論文3編程度を中心に国内・国際観光関連記事を掲載しており、財団研究員も一部の執筆を担当していましたが、その後専門家や実務家からの寄稿を中心とする構成に変更しました。創刊号では、東京大学の林周二教授の論説「観光業の本質とそのマーケティング課題」が掲載され、旅行商品とメーカーである旅行会社の責任について論じたことから、観光業界を中心に大きな反響を呼ぶことになりました。

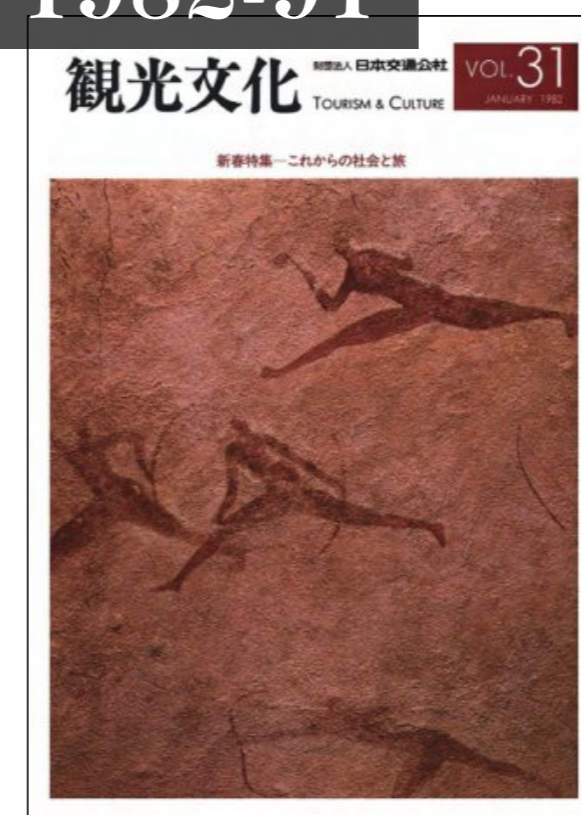


1979-81



- 13 80年代の海外旅行
- 14 80年代の陸上輸送
- 15 1980年代のホテル産業
- 16 旅行志向の変化とリゾート
- 17 観光と開発
- 18 旅行者の求める「観光」
- 19 パッケージ・ツアー
- 20 日本のパッケージ・ツアー
- 21 サラリーマンの休暇
- 22 文化・教養型の旅行
- 23 旅行と情報化社会
- 24 「団体旅行」を見直す
- 25 「熟年社会」の観光
- 26 女性からみた観光
- 27 これからの修学旅行
- 28 旅を楽しくする工夫
- 29 ミドルエイジと余暇
- 30 現代の観光の意義を考える

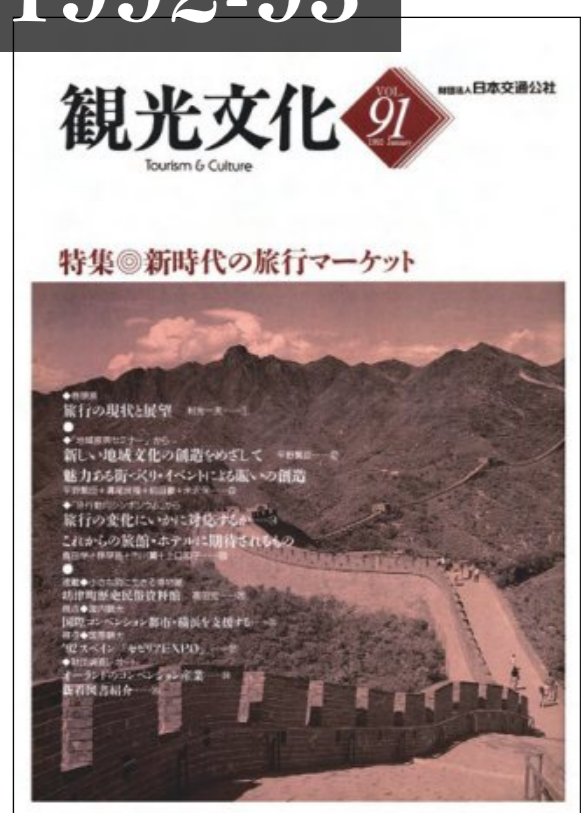
1982-91



- 31 国際交流と観光
- 32 旅の歴史と将来
- 33 観光の活性化をめざして
- 34 高齢化社会と観光
- 35 家庭生活と観光
- 36 旅のマナー
- 37 学習社会と観光
- 38 情報化社会と観光
- 39 快適・安全な旅の実現に向けて
- 40 旅行需要の創造と誘発
- 41 望ましい国内観光の実現に向けて
- 42 国際交流と観光
- 43 日本交通公社創業70周年記念
- 44 旅行業の役割を探る
- 45 これからの社会と旅

- 45 旅行ガイドブックの研究
- 46 21世紀に向けた観光振興方策
- 47 安全旅行
- 48 旅館料理
- 49 環境観光
- 50 国際交流による地域振興
- 51 海外職場旅行
- 52 旅日記の文化史
- 53 世界に通じる温泉観光地
- 54 休暇の集中を避けるために「欧米ではどうしているか」
- 55 四季型余暇・休暇のすすめ
- 56 観光開発と地域振興を考える
- 57 織り、着る文化を訪ねる
- 58 民家ウォッチング
- 59 食べる文化を旅に訪ねる
- 60 NIES観光客の台頭
- 61 テーマのある旅
- 62 独自性のある地域振興
- 63 見直されるバスツアーの魅力
- 64 ツーリズムアクションプログラム
- 65 「九〇年代観光振興行動計画」
- 66 コンベンションにきわいの場をつくる
- 67 「教育旅行」-修学旅行の新しい発展
- 68 あらためて海外に目を開く
- 69 海外旅行倍増計画Part III
- 70 海外旅行「いろいろな楽しみ方」
- 71 海外旅行倍増計画Part II
- 72 一〇〇〇万人！海外旅行倍増計画
- 73 活路をさぐる温泉観光地
- 74 瀬戸大橋「観光はどう変わるか」
- 75 地域おこしの核「地方都市」
- 76 観光事業とサービス
- 77 観光と文化財保存
- 78 転換ローカル線がもたらす「地域観光の核」として
- 79 日本人の休み方・遊び方
- 80 日本を世界に開く「地域の国際化」
- 81 クルマ時代の旅のかたち「ドライブ旅行者の意見」
- 82 クルマ時代の観光地
- 83 観光地「ブーム倒れにならないために」
- 84 観光地のあり方
- 85 観光地の変遷
- 86 観光地はどこへ「何を特色として打ち出すか？」
- 87 旅館はどこへ「中小旅館の生きる道」
- 88 旅館はどこへ「中旅館の生きる道」
- 89 旅上手な外国人旅行者
- 90 地域振興と観光
- 91 熟年者の旅
- 92 新しい旅の形を求めて
- 93 旅行に対する価値観と志向
- 94 旅に学ぶ「芸術・文化と観光」

1992-93



- 91 新時代の旅行マーケット
- 92 卒業旅行
- 93 旅と味覚
- 94 家族旅行
- 95 伝統行事を観光に活かす
- 96 土に憩う「都市と農村の交流」
- 97 旅館・ホテルのサービスを考える
- 98 新しい鉄道旅行地図
- 99 旅館料理の新たな展開を考える
- 100 財団改組30周年記念号「観光の世紀」
- 101 旅館料理の新たな展開を考える
- 102 観光文化振興基金による助成研究報告
- 103 旅館・ホテルと地域社会

1994-95



- 103 旅行の現状と展望
- 104 海外旅行この30年
- 105 旅館料理の基本を振り返る
- 106 変化する旅行者の嗜好と宿
- 107 国際会議誘致法の成立と地域振興を考える
- 108 温泉、自然資源と変貌する観光
- 109 旅行の現状と展望
- 110 変わりゆく観光地の魅力づけ
- 111 インバウンドを考える
- 112 ツーリズム・フォー・オール
- 113 《旅のノーマライゼーションのすすめ》
- 114 旅行業法・約款の改正と今後の旅づくり
- 115 観光政策の基本的方向「観光政策審議会答申から」

「観光文化」創刊のことば

『(前略) 観光文化に関する情報をひろく提供するとともに、観光についての調査研究の発表の場とするため定期刊行物として「観光文化」を創刊することとなりました。

わたしは、この誌上を通じまして皆様がたとコミュニケーションを図ってまいりたいと考えておりますことが三つあります。

先づこの観光という広い業態の各企業や団体でご活躍の方々、常にいろいろな理想や、また一方ではさまざまな問題などをお持ちのことと思いますが、わたしどもも日頃考えておりますことをこの誌上でご披露するとともに、広く各界の有識者や専門家の門を叩いて、真に観光界全般の向上発展を目指すための直言として、わたしどもの気づかない盲点やあまりふれたがらない側面にまで迫るようなご意見やご批判をどしどし発表していただきたいと願っております。

第2に、当財団の事業である各種の調査研究の成果や、さらに観光界の動きのなかでできるだけ広く集められた新しい情報を導入して、それを皆様がたのご参考に供したい所存であります。そして、最近における余暇活動や観光界をとりまく情勢の変化と考え方の進展にかんがみて、わたしどもはその原点に立ちかえって考え直してみる必要を痛感しており、また益々高度化していく旅行愛好家の要請にこたえることのできるような、より文化的な、また専門的な情報の紹介には特に努めてまいりたいと思います。

第3としては、観光界に活躍される方々、とくに新進気鋭の士が日頃の研修の成果や提言の発表の場ともなり、またそれが刺激となって、さらに後につづく人々の自主研究の活発化が促進されることによって、観光事業の一層の発展と向上に役立つことを大いに期待いたしております。(後略)』



115 116 117 118 119 120

戦後から平成へ「旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年

「戦後から平成へ」旅行雑誌『旅』が語る五十年



121 122 123 124 125 126

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり

「スターン・ジャーナル」でまちづくり



127 128 129 130 131 132

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる

「三半世紀」(30年)前の未来予想を今、ふりかえる



133 134 135 136 137 138

「やっぱり日本に行きたいね」

「やっぱり日本に行きたいね」

「やっぱり日本に行きたいね」

「やっぱり日本に行きたいね」

「やっぱり日本に行きたいね」

「やっぱり日本に行きたいね」



139 140 141 142 143 144

「クルーズの時代」とは、……

「クルーズの時代」とは、……

「クルーズの時代」とは、……

「クルーズの時代」とは、……

「クルーズの時代」とは、……

「クルーズの時代」とは、……



145 146 147 148 149 150

「自由への道」をひらいた人々【上】

「自由への道」をひらいた人々【上】

「自由への道」をひらいた人々【上】

「自由への道」をひらいた人々【上】

「自由への道」をひらいた人々【上】

「自由への道」をひらいた人々【上】



151 152 153 154 155 156

「自由への道」をひらいた人々【下】

「自由への道」をひらいた人々【下】

「自由への道」をひらいた人々【下】

「自由への道」をひらいた人々【下】

「自由への道」をひらいた人々【下】

「自由への道」をひらいた人々【下】



157 158 159 160 161 162

「9・11」が意味するもの

「9・11」が意味するもの

「9・11」が意味するもの

「9・11」が意味するもの

「9・11」が意味するもの

「9・11」が意味するもの



163 164 165 166 167 168

「世界遺産」光と陰

「世界遺産」光と陰

「世界遺産」光と陰

「世界遺産」光と陰

「世界遺産」光と陰

「世界遺産」光と陰



169 170 171 172 173 174

「学び」のすすめ

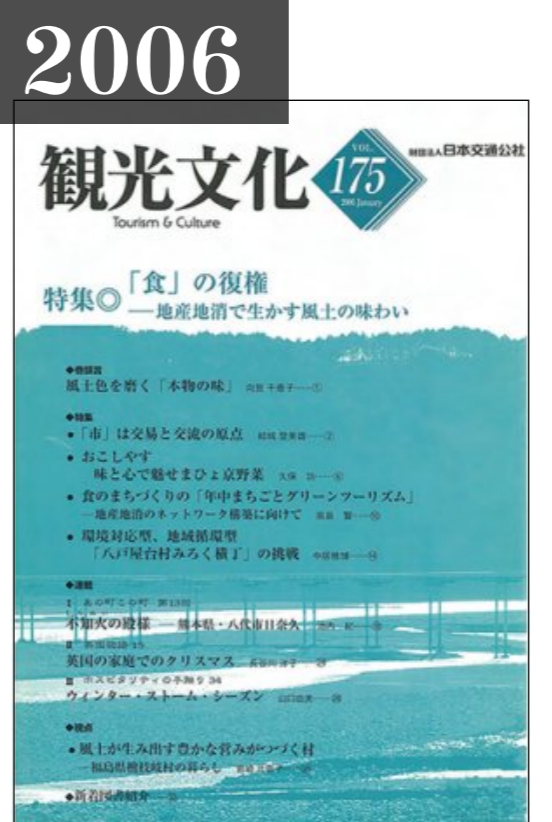
「学び」のすすめ

「学び」のすすめ

「学び」のすすめ

「学び」のすすめ

「学び」のすすめ



175 176 177 178 179 180

「食」の復権

「食」の復権

「食」の復権

「食」の復権

「食」の復権

「食」の復権



181 182 183 184 185 186

「源氏物語千年紀を祝う」

「源氏物語千年紀を祝う」

「源氏物語千年紀を祝う」

「源氏物語千年紀を祝う」

「源氏物語千年紀を祝う」

「源氏物語千年紀を祝う」



187 188 189 190 191 192

「愛しの富士山」

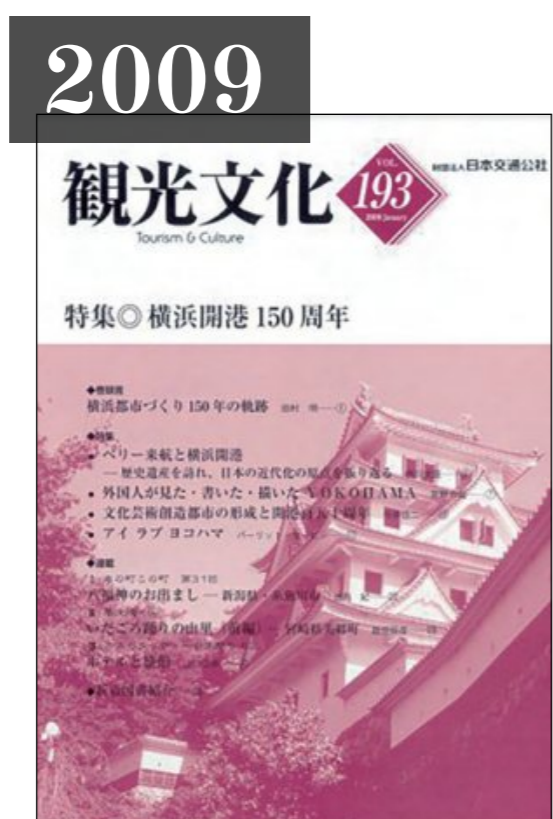
「愛しの富士山」

「愛しの富士山」

「愛しの富士山」

「愛しの富士山」

「愛しの富士山」



193 194 195 196 197 198

「平城遷都千三百年」

「平城遷都千三百年」

「平城遷都千三百年」

「平城遷都千三百年」

「平城遷都千三百年」

「平城遷都千三百年」



199 200 201 202 203 204

「九州観光交流新時代」

「九州観光交流新時代」

「九州観光交流新時代」

「九州観光交流新時代」

「九州観光交流新時代」

「九州観光交流新時代」



205 206 207 208 209 210

「東日本大震災からの復興に向けて」

「東日本大震災からの復興に向けて」

「東日本大震災からの復興に向けて」

「東日本大震災からの復興に向けて」

「東日本大震災からの復興に向けて」

「東日本大震災からの復興に向けて」



211 212 213 214

「小笠原観光」

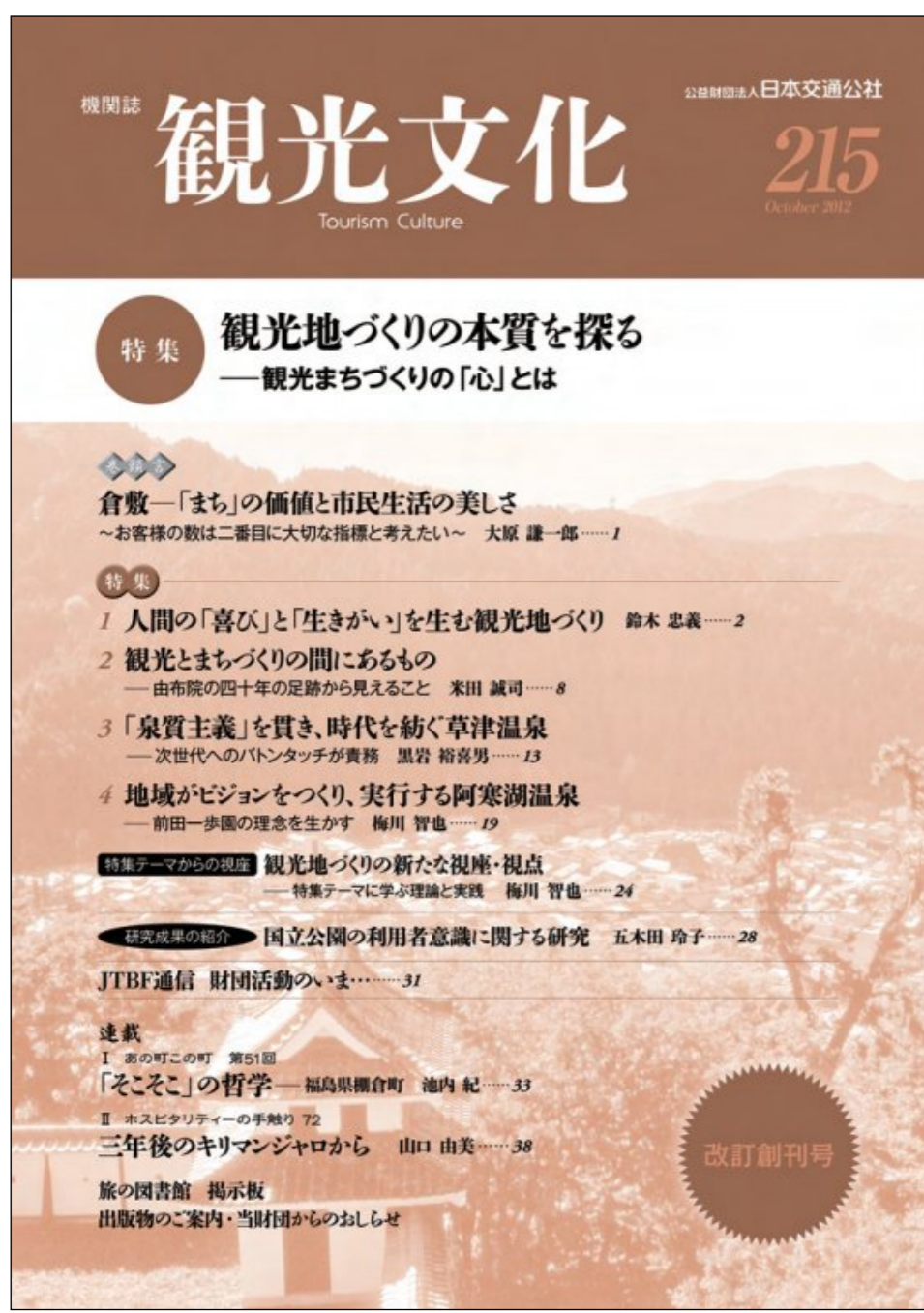
「小笠原観光」

「小笠原観光」

「小笠原観光」

「小笠原観光」

「小笠原観光」



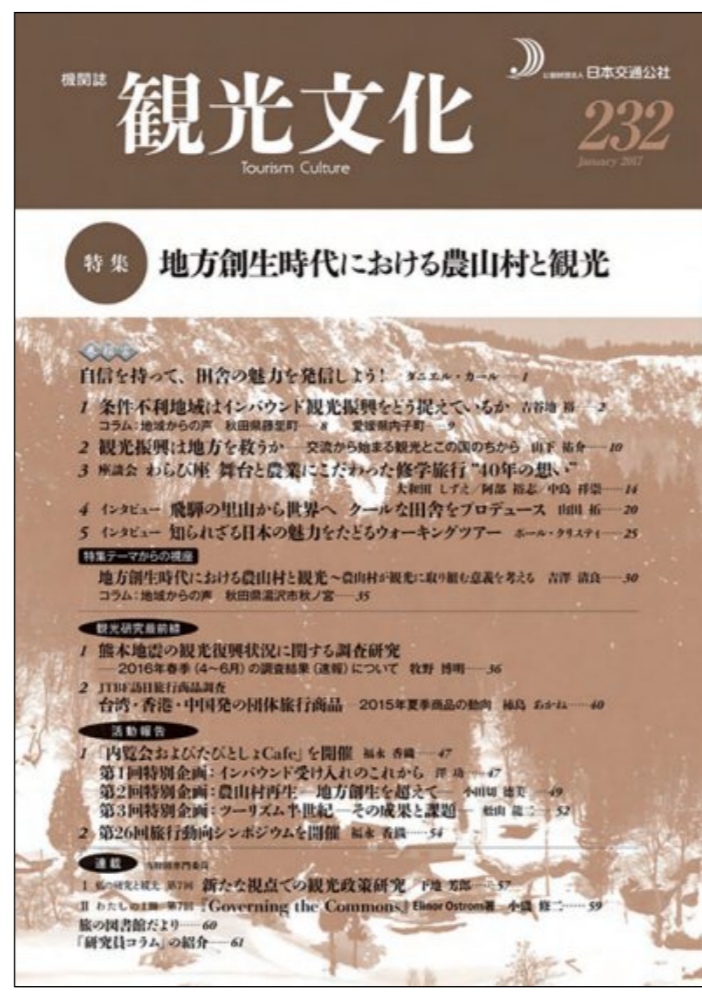
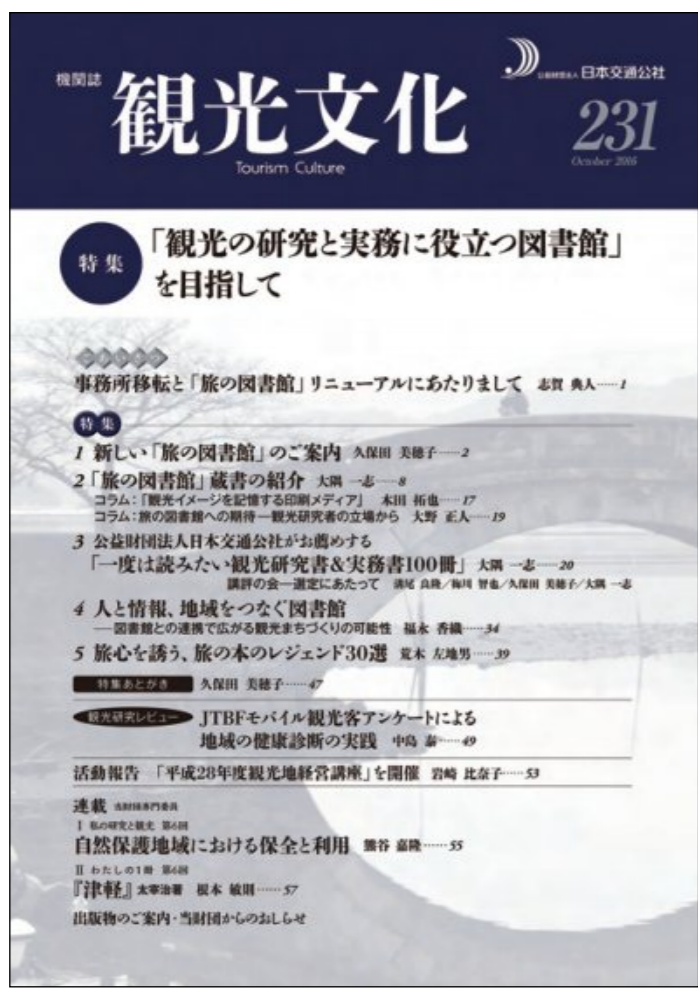
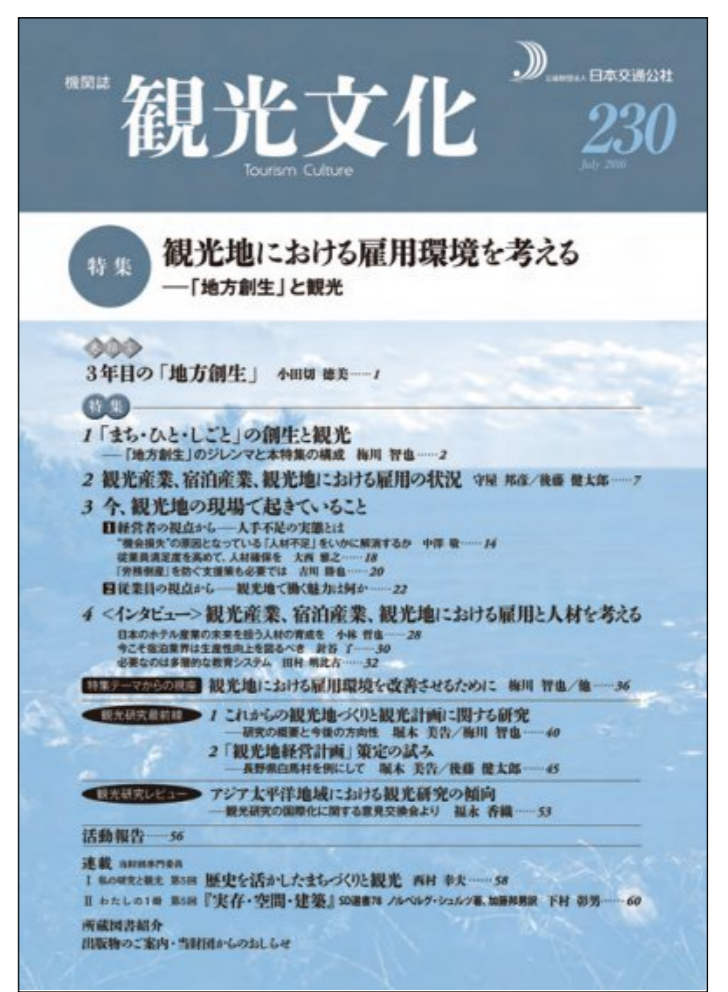
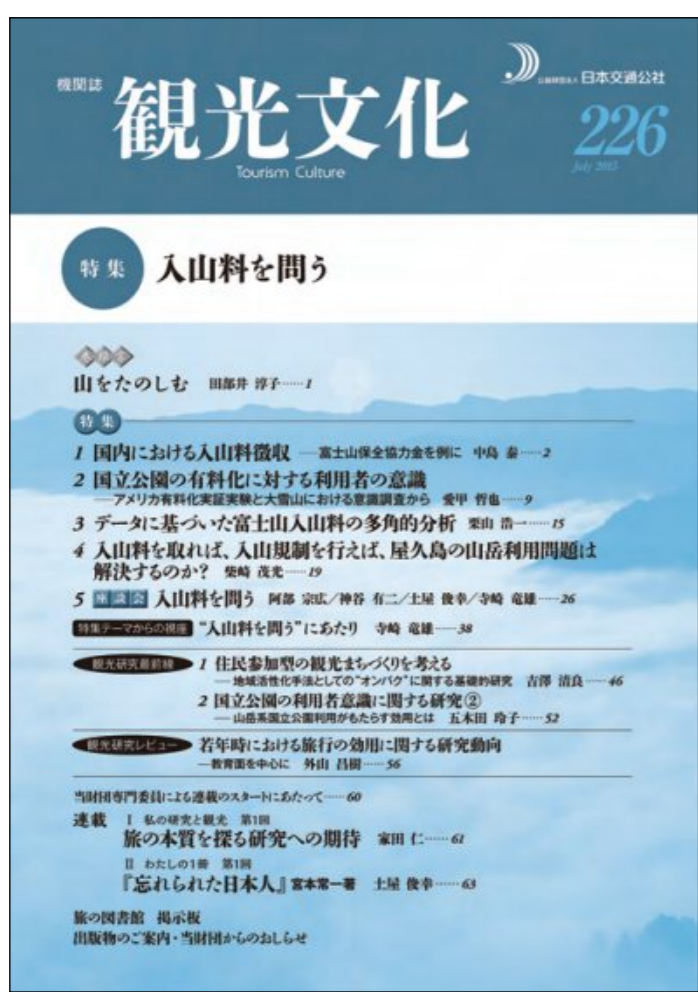
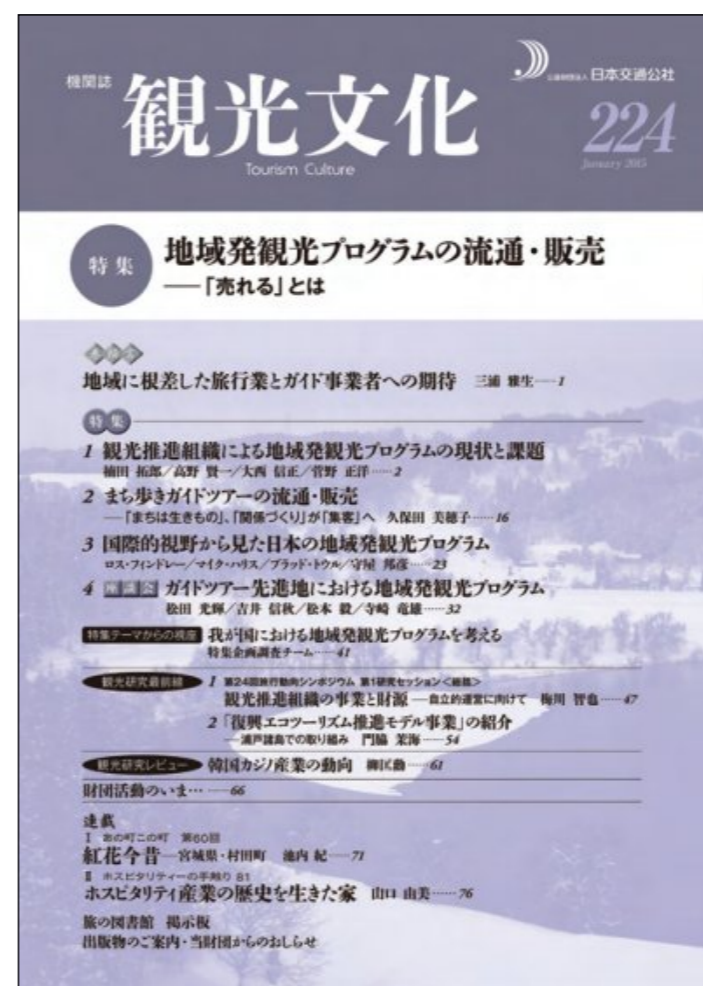
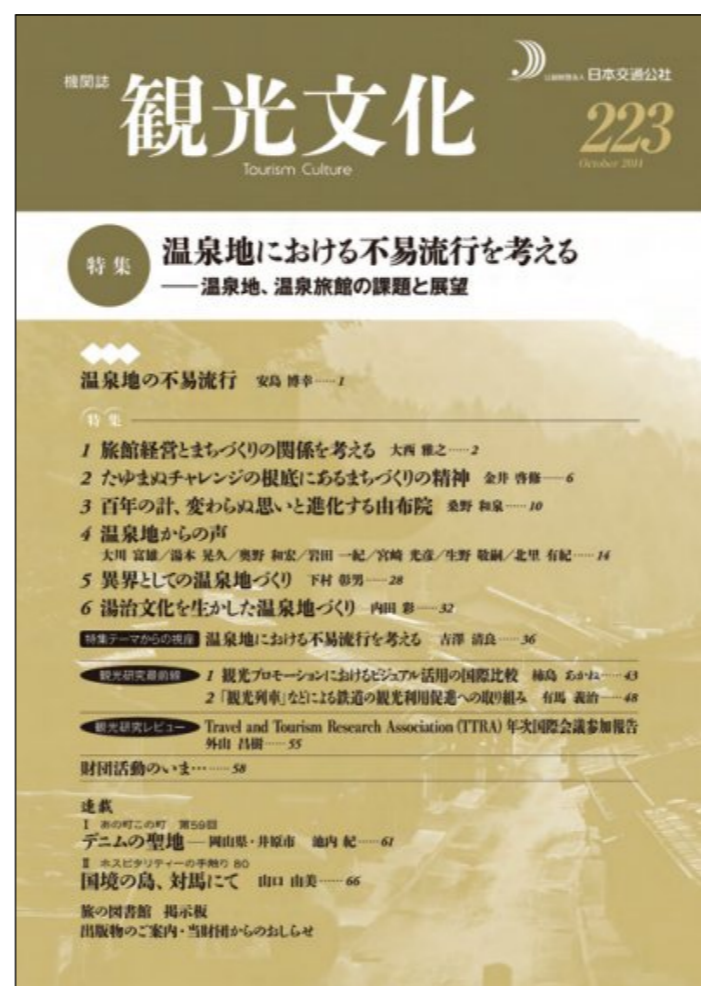
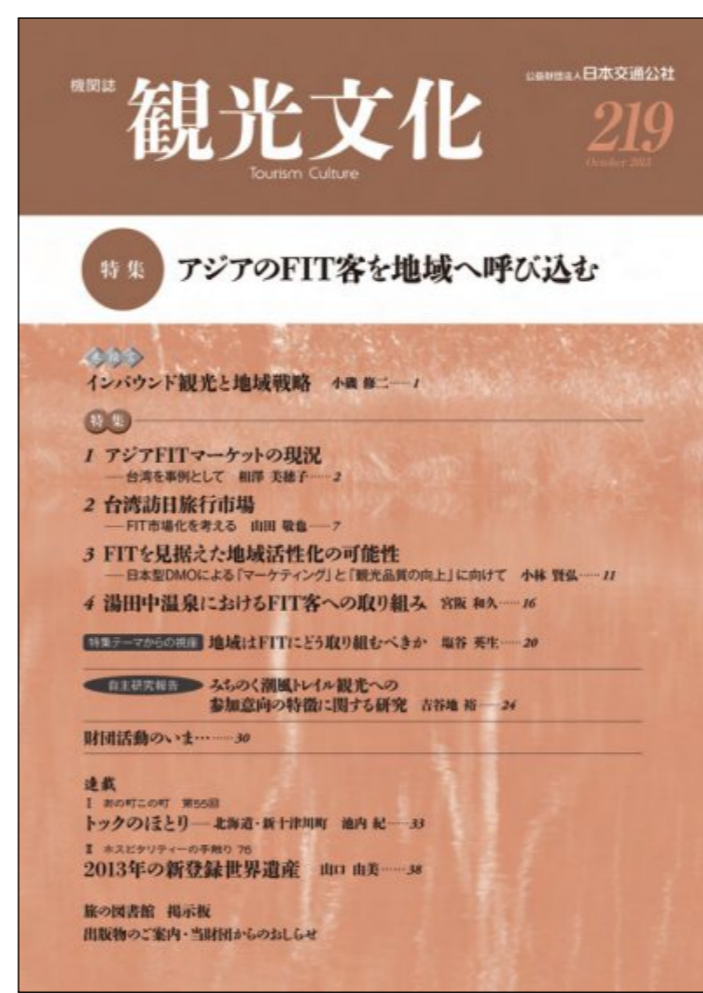
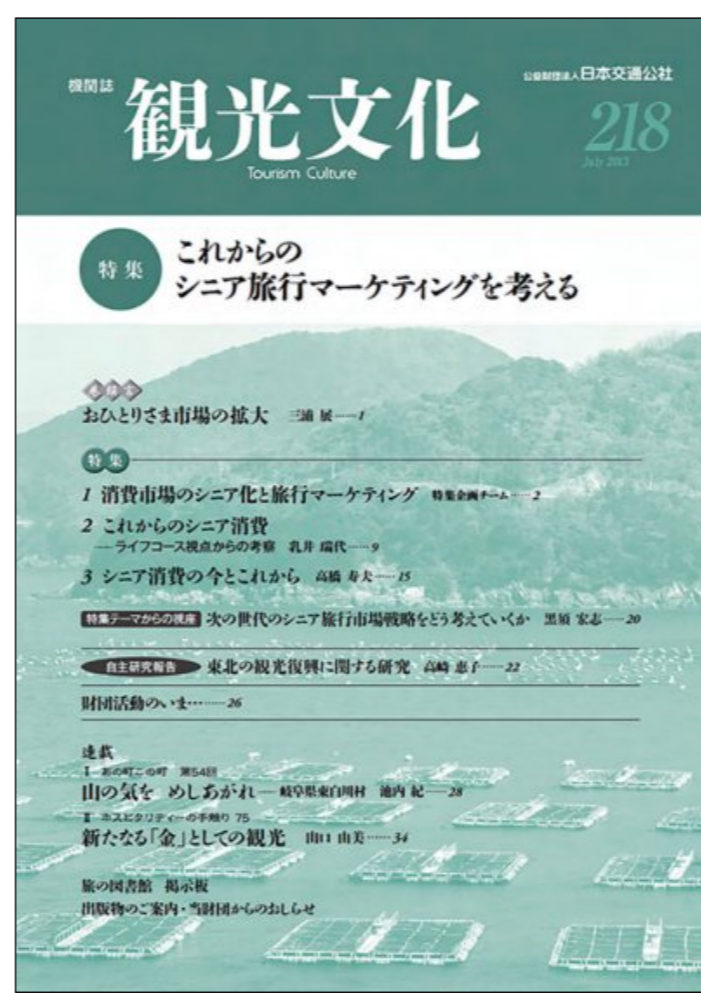
リニューアルを経て

これから

2012年10月 [No.215]

「観光文化」は創業100年にあたる215号から、機関誌としての役割をより明確にすべく、紙面の全面刷新を行いました。

当財団の調査研究・事業活動を基に特集テーマを設定し、研究員が執筆にあたり、外部の専門家の方々からのご寄稿、ご協力をいただきながら、観光文化発展のための論考、提言の場となるような紙面づくりを目指し、今日に至っています。



『観光文化』の編集方針と誌面の刷新について

「(前略) これまでの『観光文化』は、主にそれぞれの時代における観光のトピックを特集テーマに据え、各テーマに造詣の深い方々に執筆をお願いする形でまとめてまいりました。おかげさまで、多様で深奥な知見が凝縮された冊子として高い評価をいただいております。文字通りわが国の観光文化の発展に寄与してきたものと自負しております。今回の刷新では、この理念を継承しつつも、これまでの皆様からのご指導により蓄積されてきました当財団の知見に基づく論考・提言を発表する場として位置付ける方針といたしました。(中略) 公益財団法人としての公益活動を幅広くお伝えすることを目的に、研究成果や活動内容の紹介、「旅の図書館」からのご案内の充実等を図ってまいります。折しも、創業百周年および公益財団法人への移行という節目での刷新となりましたが、今後もわが国の観光文化の振興を目指し、『観光文化』のますますの内容充実および価値向上に努める所存です。」

公益財団法人日本交通公社 会長 志賀 典人 (当時)



観光文化 50周年に向けて

観光分野の更なる発展と向上に向けて、「観光文化」が当財団の研究成果や日本全国・世界各地の取組を伝える役割を担い、観光に携わる方々の手引きとなるよう、今後も務めてまいります。

公益財団法人日本交通公社 会長 光山 清秀

「観光文化」および当財団発行書籍は
ホームページにて全文無料公開中

